

原著論文

受付：2021. 9.15

受理：2022. 2.14

居場所感が醸成される高齢者通所介護の支援に関する検討

森 本 真太郎

日本福祉大学 健康科学部

Examination of support for Day service that creates a sense of whereabouts

Shintaro Morimoto

Faculty of Health Sciences, Nihon Fukushi University

Abstract: For users of a certain Day service facility, we grasped the characteristics of occupational performance that can be done with Day service, and examined the viewpoint of Day service support that can foster a sense of whereabouts for users. As the method, we conducted a questionnaire survey on the meaning of using Day service for 47 subjects and individual interviews for 9 of them. As a result, it became clear that the occupational performance that is possible with Day service has the characteristics of enjoying natural interaction with others on an equal position and occupational performance that you like at your own will. To foster a sense of whereabouts, create a facility culture where users can carry out their occupational performance and it was considered necessary to build an equal and natural human relationship and create an environment that can be used according to the user's will and mental and physical functions. However, since the number of subjects in this study is small, it will be necessary to investigate at other facilities and test the hypothesis in the future.

Keywords: Day service：通所介護，Whereabouts：居場所，Elderly：高齢者，Occupational therapy：作業療法，Mixed methods research：混合研究法

1. はじめに

要介護認定を受けた高齢者（要介護高齢者）が利用できる介護サービスに通所介護（Day service；DS）がある¹⁾。DSの目的は、要介護高齢者が介護サービスを提供する事業所などに通い、様々な活動や介護、機能訓練を受けることで利用者の社会的孤立感の解消、心身機能の維持、利用者や家族の負担の軽減²⁾を図ること、および「居場所機能」を担うサービスとされる³⁾。この内「居場所機能」について、居場所をもつ高齢者は今までの人生に対する達成感や肯定的な認識、心身の健康保

持、健康寿命の延伸、自己や他者に対する信頼を得ることができるとされている⁴⁾。また居場所に含まれる要素には、身近な立地で近所付き合いができる「物理的居場所」⁵⁾、他者と関わりや⁴⁾社会とのつながりがもてる⁵⁾「社会的居場所」、安心でき自分の存在が肯定され^{4,5)}、自身のアイデンティティが確かめられる⁶⁾「心理的居場所」があるとされる。この3類型は「物理的居場所」が基盤にあり、人とのつながりなどの「社会的居場所」における時間経過の中で「心理的居場所」が認識されることで居場所の意味を成すとされている⁵⁾。つまり居場

所とは、単なる物理的な場所ではなく、その場所における社会的な関わりから湧き上がる主観的経験によって規定された場所といえる。これを踏まえて本研究では、人がある場所において居場所と感ずる心情を「居場所感」とし、居場所で過ごすことで湧き上がる過程を「居場所感の醸成」と定義する。

他方、「作業」に焦点を当てて、人々の健康と幸福の促進を目的に実施されるのが作業療法である⁷⁾。作業とは、対象者にとって目的や価値を持つ生活行為である⁷⁾。また作業療法では人を作業的存在と捉える⁸⁾。ここには「意味のある作業」をすることで自分自身がどのような存在かが決まるという意味が含まれている。意味のある作業をすることを「作業遂行」というが、これは作業遂行に関わる要素を環境も含めて包括的に捉える Person-Environment-Occupation Model of occupational performance (PEO モデル)⁹⁾ によって説明されている。このモデルでは、人（心身機能、心情等）、環境（物理的、社会的環境等）、作業（難易度、なじみややすさ等）の相互作用によって、3要素の接合点にある作業遂行の質が向上すると考えられている⁹⁾。これまでは人、環境、作業の適合が作業遂行を動機付けることや⁹⁾、失語症者に対する作業遂行に着目した DS 支援により、DS 内での活動性向上、Quality of Life の肯定的変化を認めた報告や¹⁰⁾、PEO モデルを用いた認知症者への介入により事例自身が作業的存在であることを再認識したという報告がある¹¹⁾。

こうした作業遂行の考えと居場所の特徴には、その人が生きる環境においてその人の存在自体やアイデンティティが肯定されるという共通点がある。つまり DS において作業遂行を可能にして利用者の作業的存在を保障することは、DS における居場所感の醸成につながる可能性があると考えられた。そして従来は PEO モデルの「人」、即ち利用者の特に心情に焦点を当てた研究がなされてきた。その結果、利用者の中には DS に嫌悪感を抱き¹²⁾、思い通りに活動できず¹³⁾、受動的な態度で利用しており¹⁴⁾、DS の対人関係が否定的イメージにつながることが明らかになっている^{2,12,13)}。これは一部の利用者の心情であるが、こうした心情を抱く利用者は DS で居場所感が醸成されにくい可能性がある。またこれらの研究は基本情報などの断片的な情報は開示されていたが、利用者の心情が人、環境、作業のどのような相互作用によるものなのか推測が難しく、DS における居場所

感の醸成との関連を見出すことができなかった。しかし DS がその目的に照らして居場所として機能するには、人、環境、作業の相互作用によって可能になる作業遂行と、そこから湧き上がる利用者の心情を丁寧に捉え、居場所に含まれる要素と関連付けることが必要であろう。

以上より本研究の目的は、居場所感の醸成を促進する要因があると想定された某 DS 施設 (Certain DS ; CDS) とその利用者を対象に、DS における作業遂行が利用者、DS の環境、DS の作業のどのような相互作用によって可能になるかを探索的に捉え、その結果を踏まえて作業遂行の観点から利用者の居場所感の醸成を促進できる DS の支援の視点について提案することとした。

2. 方法

2.1 研究デザイン

本研究ではメタ研究法として構造構成的研究法を導入した。その理由は、本研究は実証的アプローチと解釈的アプローチという異なる認識論を跨ぐため、研究全体の理論的基盤としてメタレベル位置するパラダイムに基づいた研究法が必要となるためである。その上で混合研究法の説明的順次デザインの参加者選定モデルを用いて検討した。このデザインは、最初に量的データの収集と分析（量的フェーズ）を行いデータの全体的な傾向を明らかにし、その結果を踏まえて個人の経験や文脈に関する質的データの収集と分析（質的フェーズ）を加えるというものである。参加者選定モデルとは、量的フェーズの結果から質的フェーズの参加者を研究目的に照らして関心相関的に選定するためのモデルである。つまり本研究では量的フェーズと質的フェーズを方法レベルで連結し、質的フェーズの対象者選定において量的フェーズの結果、即ちデータの全体的な傾向を根拠とすることで、CDS の作業遂行における人、環境、作業の相互作用の理解につながる適切な対象者を選定する可能性を高めることができ、本研究の目的に適したデザインであると判断した。本研究では量的フェーズを研究 1、質的フェーズを研究 2 と称して実施した。

2.2 対象施設の概要と選定理由

対象施設である CDS の概要は、利用者は半日単位（1 回約 3 時間）で週に 1～2 回通所しており、1 回の利用者数は最大 15 名であった。主なサービス内容は、運動機器を使用した身体的エクササイズや機能訓練指導員

による個別訓練を提供していた。調査時の職員は、介護職員 4 名、機能訓練指導員 2 名であった。選定理由は、筆者は作業療法士として利用者の個別機能訓練や他の職員に対する機能訓練のファシリテートなどを行った経験から利用者との人間関係が築かれ、研究目的に即したデータ収集が可能と判断した。また CDS は介護保険制度の理念に根ざしたサービスが貫かれ、利用者同士で交流しながら設置された運動機器を互いに譲り合って使用し、自律的に活動する様子が観察できた。また地域密着型の施設として運営されていたため利用者からみると身近な立地にあり、利用者同士で顔見知りの者もいた。そのため CDS には作業遂行を可能にする環境と作業があり、その結果、居場所感が醸成されやすい条件が整っている可能性が高いと判断し対象施設とした。

2.3 対象者

CDS の利用者 73 名の内、会話とアンケート回答が可能、認知症と診断されていない、利用開始 12 ヶ月以上が経過、研究の説明を受け同意が得られた者の条件を満たす 47 名を対象とした。利用開始 12 ヶ月以上とした理由は、CDS では 3 ヶ月毎に個別の通所介護計画が修正されていた。その際に利用者の意見が聴取されて CDS の通所介護計画に反映される。その内容は CDS 職員にカンファレンスを通じて周知されていた。従って利用者への意見聴取と通所介護計画の修正が複数回実施され、その内容を反映した DS 支援が実際に実施されたタイミングが CDS において居場所感が醸成される機会になり得ると判断した。

2.4 データ収集内容

2.4.1 研究 1 のデータ収集内容

2.4.1.1 対象者の基本情報

対象者の基本属性（性別、年齢）、基礎疾患、社会的情報（要介護度、世帯情報、CDS の利用期間）を CDS の記録物から収集した。

2.4.1.2 CDS の利用意識と生活と健康の満足感

CDS の利用意識と生活と健康の満足感の全体的傾向を明らかにするために、CDS 利用に対する思いと、それに関連すると考えられた利用しない日の気分、生活と健康の満足感に関する質問紙調査を 47 名の対象者に実施した。VAS の質問項目は、利用者の心情に着目したこれまでの研究^{12~15)}によって明らかにされた DS の問

題点を参考に研究目的に照らして関心相関的に設定し、Visual Analogue Scale (VAS) を用いて回答を求めた。VAS 値 (mm) が高いほどその心情を強く感じていることになる。実際の VAS の質問項目は、CDS 利用に対する①重要性、②楽しさ、③利用日の気分、④職員との人間関係の満足感、⑤他利用者との人間関係の満足感、⑥設備の満足感、⑦プログラムの満足感、⑧利用効果の満足感、⑨ CDS の全体的な満足感、⑩非利用日の気分、⑪生活の満足感、⑫健康状態の満足感の 12 項目であった。

2.4.2 研究 2 のデータ収集内容

研究 1 の結果を踏まえて CDS に対する思いを明らかにするために個別インタビューを実施した。インタビューは筆者が行い、実施場所は CDS か対象者の自宅であった。研究 1 と 2 の結果を解釈する際に、インタビューの質問項目と VAS の質問項目を可能な限り合致させることが理想であるが、VAS の質問項目をそのまま用いると対象者の語りを制限してしまうことが推測されたため、まずはオープンクエスションの質問項目（表 1）を設定し、その上で研究 1 の結果を踏まえながら質問を展開した。

表 1 インタビューガイド

- | |
|----------------------------------|
| ① CDSに対する利用前の印象はどのようなものでしたか？ |
| ② 実際にCDSを利用してみてどのような印象ですか？ |
| ③ あなたにとってCDSはどのような意味がありますか？ |
| ④ ③は実際に利用してみてどのように変化しましたか？その理由は？ |
| ⑤ 上記のようにCDSを利用することをどのように感じていますか？ |
| （実際には、研究1の結果も参照して質問した） |

2.5 分析方法

2.5.1 研究 1 の分析方法

対象者 47 名の基本情報と VAS 値の集計を行った。その後、VAS 値を用いて主成分分析を行った。主成分負荷量に含まれる内容を確認し、本研究では寄与率が高い第 1、第 2 主成分に着目した。その上で主成分の特徴を反映した対象者を分類して抽出するために、主成分分析で導出された主成分得点を用いてクラスター分析を行い、対象者 47 名を 3 つのグループに分類した。統計学的分析は SPSS Ver.27 を使用した。

2.5.2 研究 2 の分析方法

研究 2 の対象者は、量的フェーズの結果を踏まえて質的フェーズの参加者を決めるという説明的順次デザインの参加者選定モデルを用い、その上で研究 1 に参加

した47名の中から混合研究法で用いられる最大多様性サンプリングを行なった。このサンプリングは、研究目的に照らして異なる見方の個人を選定することで、網羅的に多様な意見を収集することを目的としたものである。実際には、まず研究1のVASを用いた質問紙調査の際に個別インタビューの協力者を募った。次に研究1で分類した3つの各グループから1名ずつ選定して順に個別インタビューを行った。この手順を繰り返し最終的に各グループから3名ずつ、合計9名に達した時点で個別インタビュー内容に新たな情報が加わることがなくなったため理論的飽和に達したと判断し、それ以降の新たな対象者選定をやめた。個別インタビューの内容はICレコーダーで録音し、その内容を逐語録化した。次に逐語録を元に個別KJ法1ラウンドの手法に従いインタビュー内容を統合・構造化した。実際には、通常の1ラウンドの手順に従い、ラベル作り、ラベル広げ、ラベル集め、表札作り（第1～3段階）、図解化、文章化の順で実施した。

最後に、KJ法の第2、3段階の表札内容をPEOモデルの3要素に当てはめて、CDSで可能な作業遂行の特徴をまとめた。第2、3段階の表札に着目した理由は、第1段階の表札の場合その内容が個別具体的で本研究で得られた知見の適用範囲が限定的となることが予測されたため、第1段階よりも統合が進んだ第2、3段階の表札内容に着目して汎用性をもたせ、本研究で得られた知見の適用範囲を他利用者や他施設に広げることを意図したためである。実際のまとめでは、表札内容とPEOモデルの3要素の関係、および各表札がどの対象者やクラスターの語りから作成されたかを表にまとめ、各対象者やクラスターの違いによる語りの特徴を分析した。またPEOモデルでは、人と環境、人と作業、環境と作業の相互作用の可能性もあり、これらは作業遂行にも関係すると考えられている¹⁵⁾。そこで作業遂行に係る各表札内容、および各表札がPEOモデルのどこに位置するかを、PEOモデルの概念図に当てはめながら図示しCDSで可能な作業遂行の特徴をまとめた。

なお筆者は霧芯館主催のKJ法研修会を受講し、KJ法を用いた研究経験がある指導者に指導を受けた。また作業療法士10名が所属する大学院のゼミで協議し結果の確実性の確保に努めた。

2.6 調査期間

研究1は2018年7月～8月、研究2は2019年1月～3月に実施した。

2.7 倫理的配慮

対象者には研究目的と方法、同意しない場合の権利保障、個人情報保護について口頭と文書にて説明を行い同意が得られた者を対象者とした。聖隷クリストファー大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号：18010, 18061）。

3. 結果

3.1 研究1の結果

3.1.1 対象者の基本情報（表2）

対象者は男性19名、女性28名、平均年齢は81±5歳、要介護度は要支援1・2が26名、要介護1・2が19名、要介護3が2名、基礎疾患は整形疾患が22名、脳血管疾患が9名であった。世帯情報は他者と同居している者が30名、独居が17名であり、利用期間は36ヶ月以上利用している者が23名であった。

表2 対象者の基本情報の集計結果

性別	男性 / 女性	19 (40.4%) / 28 (59.6%)
年齢	平均81±5歳	
要介護度	要支援1・2	26 (55.3%)
	要介護1・2	19 (40.4%)
	要介護3	2 (4.2%)
基礎疾患	整形疾患	22 (46.8%)
	脳血管疾患	9 (19.1%)
	呼吸器疾患	3 (6.4%)
	心疾患	2 (4.2%)
	その他	11 (23.4%)
世帯情報	子供またはその家族と同居	20 (42.5%)
	独居	17 (36.2%)
	配偶者と2人暮らし	10 (21.3%)
利用期間 (平均33±13ヶ月)	12ヶ月～24ヶ月	11 (23.4%)
	24ヶ月～36ヶ月	13 (27.7%)
	36ヶ月～	23 (48.9%)

(略語) 対象施設: CDS, (単位) 人数(%), n=47

3.1.2 CDSの利用意識と生活と健康の満足感

3.1.2.1 VAS値の集計結果（表3）

VAS値の全体平均は67.9±20.1mmであった。平均値が高かった項目は「職員との人間関係の満足感」「重要性」が75mm以上、「CDSに対する全体的な満足感」「楽しさ」「設備の満足感」「プログラムの満足感」「利用日の気分」は70mm以上であった。一方「非利用日の気分」「健康状態の満足感」「生活の満足感」は50mm台であった。

3.1.2.2 VAS 値の主成分分析とクラスター分析の結果

VAS 値の主成分分析により導出した主成分の累積寄与率が80%を超えた時点で5つの主成分が抽出できた。本研究では、寄与率が高かった第1主成分と第2主成分に着目した。主成分の命名は、第1主成分を「CDSに対する満足感」、第2主成分を「生活と健康の充足感」とした(表4)。次に、第1, 2主成分の主成分得点を用いたクラスター分析によって対象者47名を3つのグループに分類した(図1)。図1より、対象者47名の中でクラスター1は「生活と健康の充足感」は低い

「CDSに対する満足感」はやや高い、クラスター2は「生活と健康の充足感」と「CDSに対する満足感」が共に高い、クラスター3は「生活と健康の充足感」は高いが「CDSに対する満足感」は低いという特徴を示す集団であった。

3.2 研究2の結果

3.2.1 対象者の基本情報

ここでは研究1に参加した47名の中から、合計9名とした。A, B, C氏はクラスター1, D, E, F氏はク

表3 VAS 値の集計結果

質問項目	平均値±SD
①重要性	75.4±21.1
②楽しさ	72.8±22.3
③利用日の気分	70.9±21.3
④職員との人間関係の満足感	77.5±17.9
⑤他利用者との人間関係の満足感	69.5±21.3
⑥設備の満足感	70.5±18.4
⑦プログラムの満足感	71.5±17.5
⑧利用効果の満足感	65.5±21.2
⑨CDSの全体的な満足感	74.2±16.6
⑩非利用日の気分	52.0±21.6
⑪生活の満足感	59.8±22.5
⑫健康状態の満足感	54.8±22.5
全体平均	67.9±20.1
(略字)Standard deviation:SD, 単位:mm, n=47	

表4 VAS 値の主成分分析の結果

質問項目	主成分負荷量	
	第1主成分	第2主成分
楽しさ	0.886	0.054
プログラムの満足感	0.853	-0.269
人間関係の満足感(対職員)	0.832	-0.242
人間関係の満足感(対利用者)	0.820	0.164
CDS全体的な満足感	0.819	-0.087
利用日の気分	0.809	0.173
設備の満足感	0.711	-0.233
重要性	0.629	-0.287
生活の満足感	0.357	0.811
健康の満足感	0.233	0.788
非利用日の気分	0.065	0.538
利用効果の満足感	0.456	0.039
寄与率(%)	45.805	15.859
累積寄与率(%)	45.805	61.664
固有値	5.497	1.903
<主成分の命名> 第1主成分:CDSに対する満足感		
第2主成分:生活と健康の充足感		

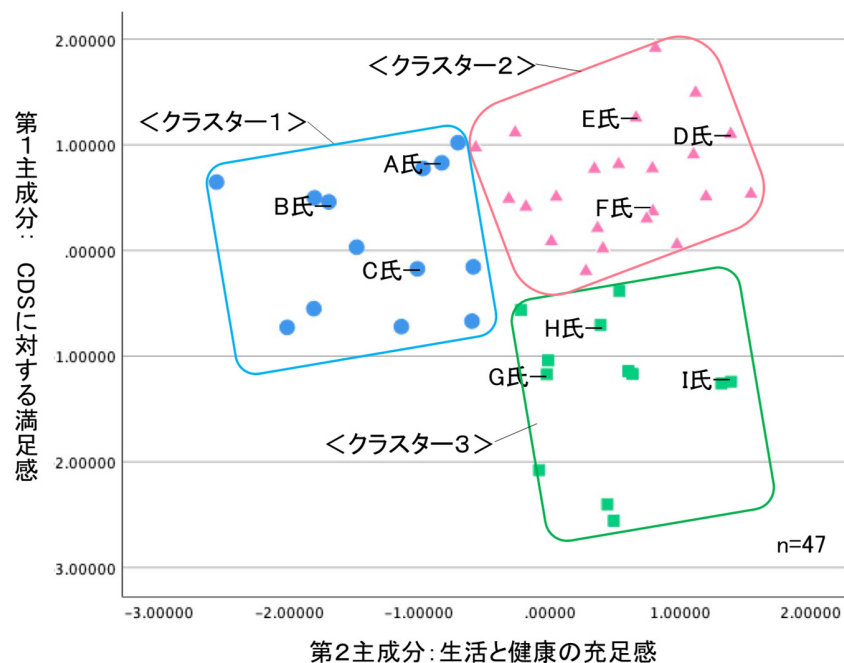


図1 VAS の主成分得点を用いたクラスター分析の散布図と対象者の位置付け

ラスター 2, G, H, I 氏はクラスター 3 から選出した。各対象者の基本情報は表 5 にまとめた。

3.2.2 逐語録のラベル化と図解化

インタビュー時間の合計は 524 分、所要時間は 1 人平均 58 ± 8 分であった (表 5)。KJ 法による統合・構造化の結果、ラベル総数は 259 であった。それらを図解化し第 2, 3 段階で作成された表札を抜粋したものが図 2 である。図 2 の内容は以降の文章化にて説明した。

3.2.3 文章化

文章化では、第 3 段階で生成された表札内容は《ローマ数字・内容》、第 2 段階で生成された表札内容は《アラビア数字・内容》、シンボルマークは【】で示した。

対象者の中には《Ⅰ. 大規模 DS は利用者の言動を管理するため不満》を感じる者がいる。この背景には大規模 DS で〈1. 子供扱いされて 1 日が長い〉〈2. 一方的に言動をコントロールされる〉〈3. 強制的に集団訓練

に参加させられ楽しくない》という体験がある。そして【自分に合った小規模 DS】は【管理的な大規模 DS への不満】に對立する心情として浮かび上がる。特に対象者は《Ⅱ. CDS の設備と対人交流から楽しさと癒し》を感じていた。その内情は〈1. CDS の規模が自分に合っており〉、要介護高齢者にも〈2. 使いやすい設備があるため安心して動きやすく〉、〈3. 利用者同士の会話で癒され〉〈4. 自分の趣味を持ち込めて楽しさ〉を感じる者もある。こうした【自分に合った小規模 DS】には良質な人間関係が伴う。そこには《Ⅲ. 心理的な安心感が得られる職員への感謝》がある。対象者は CDS の職員に対し〈2. 人の気持ちがわかるやさしさ〉を感じ〈4. 言葉で癒してくれる〉ことや〈1. 先を読んで支援する〉、〈3. 何気ない介助に高い専門的な技術を感じる〉ことで利用者の安心と感謝につながる。次に《Ⅳ. 遠慮なく関われる人間関係》では、特に〈1. 職員との対等

表 5 研究 2 の対象者の基本情報

CL	対象者	性別	年齢	要介護度	基礎疾患	世帯情報	利用年数	面接時間
1	A 氏	男	70 歳代	要介護 1	脳血管疾患	独居	約 4 年	55 分
	B 氏	男	80 歳代	要介護 1	脳血管疾患	独居	約 4 年半	63 分
	C 氏	男	70 歳代	要介護 2	呼吸器疾患	独居	約 4 年半	48 分
2	D 氏	女	80 歳代	要支援 2	整形疾患	独居	約 3 年半	58 分
	E 氏	男	80 歳代	要支援 2	整形疾患	妻と同居	約 4 年半	68 分
	F 氏	女	80 歳代	要介護 1	脳血管疾患	子と同居	約 3 年	67 分
3	G 氏	男	70 歳代	要支援 2	整形疾患	妻子と同居	約 3 年半	55 分
	H 氏	女	80 歳代	要介護 1	整形疾患	子と同居	約 4 年半	64 分
	I 氏	男	70 歳代	要介護 1	整形疾患	妻子と同居	約 3 年半	46 分

(略字) cluster: CL

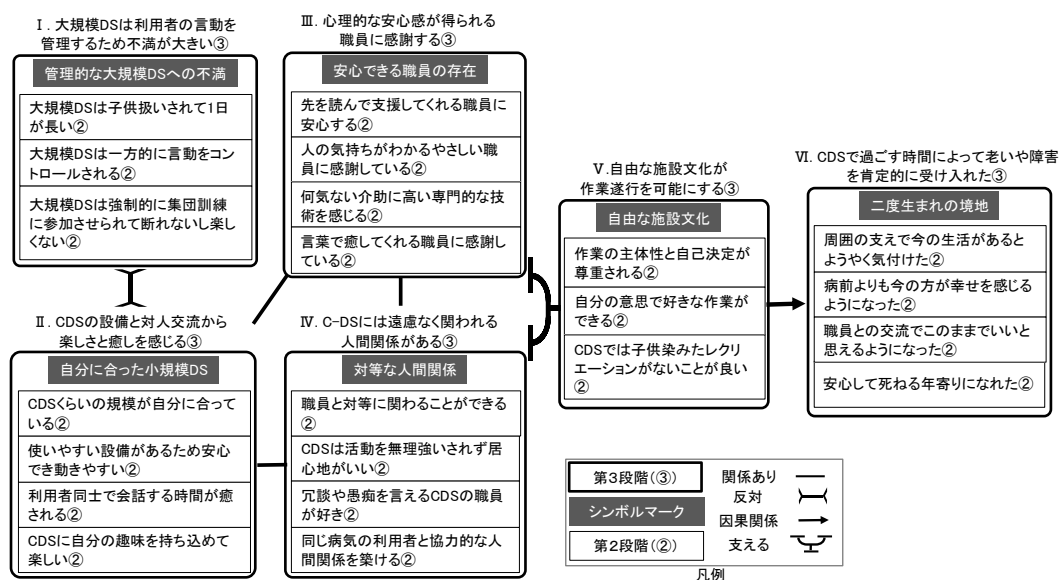


図 2 居場所感を醸成する DS の図解

に関わり〉によって〈2. 活動を無理強いされず居心地よく〉〈3. 冗談や愚痴を言える CDS 職員が好き〉になる。こうした自然な対人交流は〈4. 同じ病気の利用者と協力的な人間関係を築ける〉ことにもつながる。この【安心できる職員の存在】と【対等な人間関係】は、【自由な施設文化】に支えられる。CDS 独自の施設文化により《V. 自由な施設文化が作業遂行を可能にする》ことができ、対象者自身が〈1. 作業の主体性と自己決定が尊重される〉ことを実感することで〈2. 自分の意思で好きな作業ができる〉ようになる。また〈3. 子供染みたレクリエーションがない〉ことも作業を強制しない【自由な施設文化】の表れである。その結果《VI. CDS で過ごす時間によって老いや障害を肯定的に受け入れた》という【二度生まれの境地】に達する。その内情は〈1. 周囲の支えで今の生活があると気付き〉〈2. 病前よりも今の方が幸せを感じるようになった〉。そして〈3. このままでいいと思えるようになり〉〈4. 安心して死ぬ年寄りになれた〉という境涯に至る。

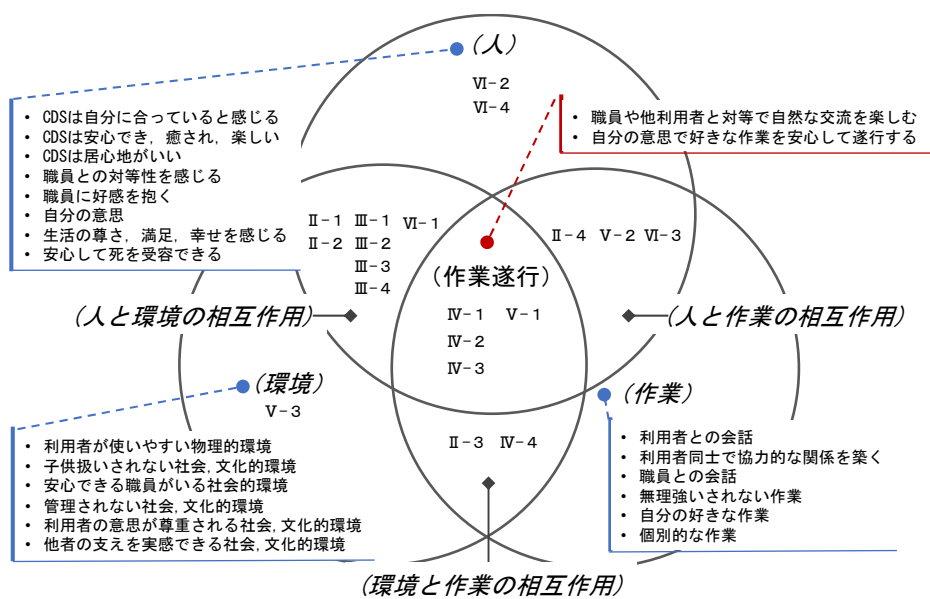
3.2.4 CDS で可能な作業遂行の特徴 (表 6)

表 6 より、表札内容と PEO モデルの構成要素の関係をみると第 II, IV, V, VI 表札で人、環境、作業の全ての要素が含まれていた。また第 II, III, IV 表札は CDS 内の人間関係に関わる内容、それを支える第 V 表札は CDS で可能な作業遂行であり、その中で得られた CDS 利用の効果が第 VI 表札の内容であった。

次に各表札がどの対象者の語りから作成されたかをみると、概ね全ての表札に 3 つのクラスターの対象者からの語りに関係していた。一方で第 I 表札ではクラスター 2, 第 III 表札ではクラスター 3 の語りがなかった。

最後に、第 II～VI 表札の内容を元にして CDS で可能な作業遂行の特徴を図 3 にまとめた。第 I 表札は CDS の作業遂行とは直接関係しない内容であったため図 3 への付記は除外した。以下、CDS で可能な作業遂行の特徴が導かれた表札の表記を第 3 段階はローマ数字、第 2 段階はアラビア数字で記した。まず第 II -3, 第 III -1～3, 第 IV -1～4 より、CDS における良好な対人関係に対して肯定的な心情が引き出されていた。そして作業遂行には第 IV -1～3 が位置することから、CDS の良好な人間関係が作業遂行を可能にしていることがわかる。従って CDS で可能な作業遂行の第 1 の特徴は「職員や他利用者と対等で自然な交流を楽しむ」とまとめた。

次に、作業遂行に関する内容は V -1 であった。KJ 法の展開図 (図 2) より第 V 表札は第 II～IV 表札の内容を支える表札であることから、人と環境、およびその相互作用に含まれる肯定的心情を「安心」、作業の主体性や自己決定を「意思」、作業およびその相互作用に含まれる肯定的心情を「好きな作業」とし、これを踏まえて CDS で可能な作業遂行の第 2 の特徴を「自分の意思で好きな作業を安心して遂行する」とまとめた。



ローマ数字はKJ法第3段階の表札、アラビア数字はKJ法第2段階の表札番号を示す。

図 3 PEO モデルにおける CDS で可能な作業遂行の特徴

表6 表札内容に含まれる PEO モデルの構成要素および各対象者の語りの有無

研究 1		研究 2																							
KJ法 第 3 段階の 表札		I. 大規模DSは利用者の言動を管理するため【環境】が大きい【人】				II. ODSの設備【環境】と対人交流【作業】から楽しさと楽しさを感じる【人】				III. 心理的な安心感が得られる【人】職員に感謝する【人】				IV. ODSには遠慮なく関わられる人間関係がある【人・環境・作業】				V. 自由な施設文化【環境】が作業遂行【人・環境・作業】を可能にする				VI. ODSで過ごす時間【環境・作業】によって老いや障害を肯定的に受け入れた【人】			
第 3 表札 PEOモデルの 構成要素		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境		人 環境	
		1	大規模環境は子供扱いされて1日が長い	2	大規模環境は一方的に言動をコントロール	3	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	4	大規模環境は楽しい自分の趣味【作業】を持ち込め	1	先に安んずる【人】	2	環境に感謝している【人】	3	何を感ずる【人】	4	同僚関係を利用者【環境】と協力的な人間関係を作る【作業】	1	作業が尊重される【環境】と自己決定【人】	2	【作業】の意識【人】で好きな作業ができる	3	【作業】の意識【人】で好きな作業ができる	4	【作業】の意識【人】で好きな作業ができる
第2段階の表札		1	大規模環境は子供扱いされて1日が長い	2	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	3	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	4	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	1	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	2	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	3	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	4	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	1	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	2	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	3	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない	4	大規模環境は強制的に集団訓練に参加させられ環境は断れないし楽しくない
第2表札 PEOモデルの 構成要素		A氏	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Q1		「生活と健康の充足感」は低いが、「ODSに対する満足感」はやや高い集団	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Q2		「生活と健康の充足感」と「ODSに対する満足感」が共に高い集団	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
Q3		「生活と健康の充足感」は高いが、「ODSに対する満足感」は低い集団	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		I氏	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

（略字）対象施設：ODS、cluster：Q1、Q2、Q3、Q4、Q5、Q6、Q7、Q8、Q9、Q10、Q11、Q12、Q13、Q14、Q15、Q16、Q17、Q18、Q19、Q20、Q21、Q22、Q23、Q24、Q25、Q26、Q27、Q28、Q29、Q30、Q31、Q32、Q33、Q34、Q35、Q36、Q37、Q38、Q39、Q40、Q41、Q42、Q43、Q44、Q45、Q46、Q47、Q48、Q49、Q50、Q51、Q52、Q53、Q54、Q55、Q56、Q57、Q58、Q59、Q60、Q61、Q62、Q63、Q64、Q65、Q66、Q67、Q68、Q69、Q70、Q71、Q72、Q73、Q74、Q75、Q76、Q77、Q78、Q79、Q80、Q81、Q82、Q83、Q84、Q85、Q86、Q87、Q88、Q89、Q90、Q91、Q92、Q93、Q94、Q95、Q96、Q97、Q98、Q99、Q100、Q101、Q102、Q103、Q104、Q105、Q106、Q107、Q108、Q109、Q110、Q111、Q112、Q113、Q114、Q115、Q116、Q117、Q118、Q119、Q120、Q121、Q122、Q123、Q124、Q125、Q126、Q127、Q128、Q129、Q130、Q131、Q132、Q133、Q134、Q135、Q136、Q137、Q138、Q139、Q140、Q141、Q142、Q143、Q144、Q145、Q146、Q147、Q148、Q149、Q150、Q151、Q152、Q153、Q154、Q155、Q156、Q157、Q158、Q159、Q160、Q161、Q162、Q163、Q164、Q165、Q166、Q167、Q168、Q169、Q170、Q171、Q172、Q173、Q174、Q175、Q176、Q177、Q178、Q179、Q180、Q181、Q182、Q183、Q184、Q185、Q186、Q187、Q188、Q189、Q190、Q191、Q192、Q193、Q194、Q195、Q196、Q197、Q198、Q199、Q200、Q201、Q202、Q203、Q204、Q205、Q206、Q207、Q208、Q209、Q210、Q211、Q212、Q213、Q214、Q215、Q216、Q217、Q218、Q219、Q220、Q221、Q222、Q223、Q224、Q225、Q226、Q227、Q228、Q229、Q230、Q231、Q232、Q233、Q234、Q235、Q236、Q237、Q238、Q239、Q240、Q241、Q242、Q243、Q244、Q245、Q246、Q247、Q248、Q249、Q250、Q251、Q252、Q253、Q254、Q255、Q256、Q257、Q258、Q259、Q260、Q261、Q262、Q263、Q264、Q265、Q266、Q267、Q268、Q269、Q270、Q271、Q272、Q273、Q274、Q275、Q276、Q277、Q278、Q279、Q280、Q281、Q282、Q283、Q284、Q285、Q286、Q287、Q288、Q289、Q290、Q291、Q292、Q293、Q294、Q295、Q296、Q297、Q298、Q299、Q300、Q301、Q302、Q303、Q304、Q305、Q306、Q307、Q308、Q309、Q310、Q311、Q312、Q313、Q314、Q315、Q316、Q317、Q318、Q319、Q320、Q321、Q322、Q323、Q324、Q325、Q326、Q327、Q328、Q329、Q330、Q331、Q332、Q333、Q334、Q335、Q336、Q337、Q338、Q339、Q340、Q341、Q342、Q343、Q344、Q345、Q346、Q347、Q348、Q349、Q350、Q351、Q352、Q353、Q354、Q355、Q356、Q357、Q358、Q359、Q360、Q361、Q362、Q363、Q364、Q365、Q366、Q367、Q368、Q369、Q370、Q371、Q372、Q373、Q374、Q375、Q376、Q377、Q378、Q379、Q380、Q381、Q382、Q383、Q384、Q385、Q386、Q387、Q388、Q389、Q390、Q391、Q392、Q393、Q394、Q395、Q396、Q397、Q398、Q399、Q400、Q401、Q402、Q403、Q404、Q405、Q406、Q407、Q408、Q409、Q410、Q411、Q412、Q413、Q414、Q415、Q416、Q417、Q418、Q419、Q420、Q421、Q422、Q423、Q424、Q425、Q426、Q427、Q428、Q429、Q430、Q431、Q432、Q433、Q434、Q435、Q436、Q437、Q438、Q439、Q440、Q441、Q442、Q443、Q444、Q445、Q446、Q447、Q448、Q449、Q450、Q451、Q452、Q453、Q454、Q455、Q456、Q457、Q458、Q459、Q460、Q461、Q462、Q463、Q464、Q465、Q466、Q467、Q468、Q469、Q470、Q471、Q472、Q473、Q474、Q475、Q476、Q477、Q478、Q479、Q480、Q481、Q482、Q483、Q484、Q485、Q486、Q487、Q488、Q489、Q490、Q491、Q492、Q493、Q494、Q495、Q496、Q497、Q498、Q499、Q500、Q501、Q502、Q503、Q504、Q505、Q506、Q507、Q508、Q509、Q510、Q511、Q512、Q513、Q514、Q515、Q516、Q517、Q518、Q519、Q520、Q521、Q522、Q523、Q524、Q525、Q526、Q527、Q528、Q529、Q530、Q531、Q532、Q533、Q534、Q535、Q536、Q537、Q538、Q539、Q540、Q541、Q542、Q543、Q544、Q545、Q546、Q547、Q548、Q549、Q550、Q551、Q552、Q553、Q554、Q555、Q556、Q557、Q558、Q559、Q560、Q561、Q562、Q563、Q564、Q565、Q566、Q567、Q568、Q569、Q570、Q571、Q572、Q573、Q574、Q575、Q576、Q577、Q578、Q579、Q580、Q581、Q582、Q583、Q584、Q585、Q586、Q587、Q588、Q589、Q590、Q591、Q592、Q593、Q594、Q595、Q596、Q597、Q598、Q599、Q600、Q601、Q602、Q603、Q604、Q605、Q606、Q607、Q608、Q609、Q610、Q611、Q612、Q613、Q614、Q615、Q616、Q617、Q618、Q619、Q620、Q621、Q622、Q623、Q624、Q625、Q626、Q627、Q628、Q629、Q630、Q631、Q632、Q633、Q634、Q635、Q636、Q637、Q638、Q639、Q640、Q641、Q642、Q643、Q644、Q645、Q646、Q647、Q648、Q649、Q650、Q651、Q652、Q653、Q654、Q655、Q656、Q657、Q658、Q659、Q660、Q661、Q662、Q663、Q664、Q665、Q666、Q667、Q668、Q669、Q670、Q671、Q672、Q673、Q674、Q675、Q676、Q677、Q678、Q679、Q680、Q681、Q682、Q683、Q684、Q685、Q686、Q687、Q688、Q689、Q690、Q691、Q692、Q693、Q694、Q695、Q696、Q697、Q698、Q699、Q700、Q701、Q702、Q703、Q704、Q705、Q706、Q707、Q708、Q709、Q710、Q711、Q712、Q713、Q714、Q715、Q716、Q717、Q718、Q719、Q720、Q721、Q722、Q723、Q724、Q725、Q726、Q727、Q728、Q729、Q730、Q731、Q732、Q733、Q734、Q735、Q736、Q737、Q738、Q739、Q740、Q741、Q742、Q743、Q744、Q745、Q746、Q747、Q748、Q749、Q750、Q751、Q752、Q753、Q754、Q755、Q756、Q757、Q758、Q759、Q760、Q761、Q762、Q763、Q764、Q765、Q766、Q767、Q768、Q769、Q770、Q771、Q772、Q773、Q774、Q775、Q776、Q777、Q778、Q779、Q780、Q781、Q782、Q783、Q784、Q785、Q786、Q787、Q788、Q789、Q790、Q791、Q792、Q793、Q794、Q795、Q796、Q797、Q798、Q799、Q800、Q801、Q802、Q803、Q804、Q805、Q806、Q807、Q808、Q809、Q810、Q811、Q812、Q813、Q814、Q815、Q816、Q817、Q818、Q819、Q820、Q821、Q822、Q823、Q824、Q825、Q826、Q827、Q828、Q829、Q830、Q831、Q832、Q833、Q834、Q835、Q836、Q837、Q838、Q839、Q840、Q841、Q842、Q843、Q844、Q845、Q846、Q847、Q848、Q849、Q850、Q851、Q852、Q853、Q854、Q855、Q856、Q857、Q858、Q859、Q860、Q861、Q862、Q863、Q864、Q865、Q866、Q867、Q868、Q869、Q870、Q871、Q872、Q873、Q874、Q875、Q876、Q877、Q878、Q879、Q880、Q881、Q882、Q883、Q884、Q885、Q886、Q887、Q888、Q889、Q890、Q891、Q892、Q893、Q894、Q895、Q896、Q897、Q898、Q899、Q900、Q901、Q902、Q903、Q904、Q905、Q906、Q907、Q908、Q909、Q910、Q911、Q912、Q913、Q914、Q915、Q916、Q917、Q918、Q919、Q920、Q921、Q922、Q923、Q924、Q925、Q926、Q927、Q928、Q929、Q930、Q931、Q932、Q933、Q934、Q935、Q936、Q937、Q938、Q939、Q940、Q941、Q942、Q943、Q944、Q945、Q946、Q947、Q948、Q949、Q950、Q951、Q952、Q953、Q954、Q955、Q956、Q957、Q958、Q959、Q960、Q961、Q962、Q963、Q964、Q965、Q966、Q967、Q968、Q969、Q970、Q971、Q972、Q973、Q974、Q975、Q976、Q977、Q978、Q979、Q980、Q981、Q982、Q983、Q984、Q985、Q986、Q987、Q988、Q989、Q990、Q991、Q992、Q993、Q994、Q995、Q996、Q997、Q998、Q999、Q1000、Q1001、Q1002、Q1003、Q1004、Q1005、Q1006、Q1007、Q1008、Q1009、Q1010、Q1011、Q1012、Q1013、Q1014、Q1015、Q1016、Q1017、Q1018、Q1019、Q1020、Q1021、Q1022、Q1023、Q1024、Q1025、Q1026、Q1027、Q1028、Q1029、Q1030、Q1031、Q1032、Q1033、Q1034、Q1035、Q1036、Q1037、Q1038、Q1039、Q1040、Q1041、Q1042、Q1043、Q1044、Q1045、Q1046、Q1047、Q1048、Q1049、Q1050、Q1051、Q1052、Q1053、Q1054、Q1055、Q1056、Q1057、Q1058、Q1059、Q1060、Q1061、Q1062、Q1063、Q1064、Q1065、Q1066、Q1067、Q1068、Q1069、Q1070、Q1071、Q1072、Q1073、Q1074、Q1075、Q1076、Q1077、Q1078、Q1079、Q1080、Q1081、Q1082、Q1083、Q1084、Q1085、Q1086、Q1087、Q1088、Q1089、Q1090、Q1091、Q1092、Q1093、Q1094、Q1095、Q1096、Q1097、Q1098、Q1099、Q1100、Q1101、Q1102、Q1103、Q1104、Q1105、Q1106、Q1107、Q1108、Q1109、Q1110、Q1111、Q1112、Q1113、Q1114、Q1115、Q1116、Q1117、Q1118、Q1119、Q1120、Q1121、Q1122、Q1123、Q1124、Q1125、Q1126、Q1127、Q1128、Q1129、Q1130、Q1131、Q1132、Q1133、Q1134、Q1135、Q1136、Q1137、Q1138、Q1139、Q1140、Q1141、Q1142、Q1143、Q1144、Q1145、Q1146、Q1147、Q1148、Q1149、Q1150、Q1151、Q1152、Q1153、Q1154、Q1155、Q1156、Q1157、Q1158、Q1159、Q1160、Q1161、Q1162、Q1163、Q1164、Q1165、Q1166、Q1167、Q1168、Q1169、Q1170、Q1171、Q1172、Q1173、Q1174、Q1175、Q1176、Q1177、Q1178、Q1179、Q1180、Q1181、Q1182、Q1183、Q1184、Q1185、Q1186、Q1187、Q1188、Q1189、Q1190、Q1191、Q1192、Q1193、Q1194、Q1195、Q1196、Q1197、Q1198、Q1199、Q1200、Q1201、Q1202、Q1203、Q1204、Q1205、Q1206、Q1207、Q1208、Q1209、Q1210、Q1211、Q1212、Q1213、Q1214、Q1215、Q1216、Q1217、Q1218、Q1219、Q1220、Q1221、Q1222、Q1223、Q1224、Q1225、Q1226、Q1227、Q1228、Q1229、Q1230、Q1231、Q1232、Q1233、Q1234、Q1235、Q1236、Q1237、Q1238、Q1239、Q1240、Q1241、Q1242、Q1243、Q1244、Q1245、Q1246、Q1247、Q1248、Q1249、Q1250、Q1251、Q1252、Q1253、Q1254、Q1255、Q1256、Q1257、Q1258、Q1259、Q1260、Q1261、Q1262、Q1263、Q1264、Q1265、Q1266、Q1267、Q1268、Q1269、Q1270、Q1271、Q1272、Q1273、Q1274、Q1275、Q1276、Q1277、Q1278、Q1279、Q1280、Q1281、Q1282、Q1283、Q1284、Q1285、Q1286、Q1287、Q1288、Q1289、Q1290、Q1291、Q1292、Q1293、Q1294、Q1295、Q1296、Q1297、Q1298、Q1299、Q1300、Q1301、Q1302、Q1303、Q1304、Q1305、Q1306、Q1307、Q1308、Q1309、Q1310、Q1311、Q1312、Q1313、Q1314、Q1315、Q1316、Q1317、Q1318、Q1319、Q1320、Q1321、Q1322、Q1323、Q1324、Q1325、Q1326、Q1327、Q1328、Q1329、Q1330、Q1331、Q1332、Q1333、Q1334、Q1335、Q1336、Q1337、Q1338、Q1339、Q1340、Q1341、Q1342、Q1343、Q1344、Q1345、Q1346、Q1347、Q1348、Q1349、Q1350、Q1351、Q1352、Q1353、Q1354、Q1355、Q1356、Q1357、Q1358、Q1359、Q1360、Q1361、Q1362、Q1363、Q1364、Q1365、Q1366、Q1367、Q1368、Q1369、Q1370、Q1371、Q1372、Q1373、Q1374、Q1375、Q1376、Q1377、Q1378、Q1379、Q1380、Q1381、Q1382、Q1383、Q1384、Q1385、Q1386、Q1387、Q1388、Q1389、Q1390、Q1391、Q1392、Q1393、Q1394、Q1395、Q1396、Q1397、Q1398、Q1399、Q1400、Q1401、Q1402、Q1403、Q1404、Q1405、Q1406、Q1407、Q1408、Q1409、Q1410、Q1411、Q1412、Q1413、Q1414、Q1415、Q1416、Q1417、Q1418、Q1419、Q1420、Q1421、Q1422、Q1423、Q1424、Q1425、Q1426、Q1427、Q1428、Q1429、Q1430、Q1431、Q1432、Q1433、Q1434、Q1435、Q1436、Q1437、Q1438、Q1439、Q1440、Q1441、Q1442、Q1443、Q1444、Q1445、Q1446、Q1447、Q1448、Q1449、Q1450、Q1451、Q1452、Q1453、Q1454、Q1455、Q1456、Q1457、Q1458、Q1459、Q1460、Q1461、Q1462、Q1463、Q1464、Q1465、Q1466、Q1467、Q1468、Q1469、Q1470、Q1471、Q1472、Q1473、Q1474、Q1475、Q1476、Q1477、Q1478、Q1479、Q1480、Q1481、Q1482、Q1483、Q1484、Q1485、Q1486、Q1487、Q1488、Q1489、Q1490、Q1491、Q1492、Q1493、Q1494、Q1495、Q1496、Q1497、Q1498、Q1499、Q1500、Q1501、Q1502、Q1503、Q1504、Q1505、Q1506、Q1507、Q1508、Q1509、Q1510、Q1511、Q1512、Q1513、Q1514、Q1515、Q1516、Q1517、Q1518、Q1519、Q1520、Q1521、Q1522、Q1523、Q1524、Q1525、Q1526、Q1527、Q1528、Q1529、Q1530、Q1531、Q1532、Q1533、Q1534、Q1535、Q1536、Q1537、Q1538、Q1539、Q1540、Q1541、Q1542、Q1543、Q1544、Q1545、Q1546、Q1547、Q1548、Q1549、Q1550、Q1551、Q1552、Q1553、Q1554、Q1555、Q1556、Q1557、Q1558、Q1559、Q1560、Q1561、Q1562、Q1563、Q1564、Q1565、Q1566、Q1567、Q1568、Q1569、Q1570、Q1571、Q1572、Q1573、Q1574、Q1575、Q1576、Q1577、Q1578、Q1579、Q1580、Q1581、Q1582、Q1583、Q1584、Q1585、Q1586、Q1587、Q1588、Q1589、Q1590、Q1591、Q1592、Q1593、Q1594、Q1595、Q1596、Q1597、Q1598、Q1599、Q1600、Q1601、Q1602、Q1603、Q1604、Q1605、Q1606、Q1607、Q1608、Q1609、Q1610、Q1611、Q1612、Q1613、Q1614、Q1615、Q1616、Q1617、Q1618、Q1619、Q1620、Q1621、Q1622、Q1623、Q1624、Q1625、Q1626、Q1627、Q1628、Q1629、Q1630、Q1631、Q1632、Q1633、Q1634、Q1635、Q1636、Q1637、Q1638、Q1639、Q1640、Q1641、Q1642、Q1643、Q1644、Q1645、Q1646、Q1647、Q1648、Q1649、Q1650、Q1651、Q1652、Q1653、Q1654、Q1655、Q1656、Q1657、Q1658、Q1659、Q1660、Q1661、Q1662、Q1663、Q1664、Q1665、Q1666、Q1667、Q1668、Q1669、Q1670、Q1671、Q1672、Q1673、Q1674、Q1675、Q1676、Q1677、Q1678、Q1679、Q1680、Q1681、Q1682、Q1683、Q1684、Q1685、Q1686、Q1687、Q1688、Q1689、Q1690、Q1691、Q1692、Q1693、Q1694、Q1695、Q1696、Q1697、Q1698、Q1699、Q1700、Q1701、Q1702、Q1703、Q1704、Q1705、Q

4. 考察

4.1 CDS で可能な作業遂行の特徴について

本研究の結果より、CDS で可能な作業遂行の2つの特徴が明らかとなった。まず第1の特徴は「職員や他利用者と対等で自然な交流を楽しむ」であった。これまではDSの対人関係が否定的イメージを生むとされることから^{2,12,13)}、良好な対人関係を構築して楽しめることは、他者との交流自体が作業遂行として成立している可能性を示しており、CDSの特徴とも考えられる。特に対象者は職員に対して対等性、感謝、癒し、安心感といった心理的居場所の要素⁴⁾に含まれる心情を抱いていた。また利用者同士の交流では、互いの疾病を起点とした協力的な関係を築く者がいた。これはピアサポートが得られる関係を構築していたと思われる。ピアサポートの考えは特に集団リハビリテーションの場で重視されるが¹⁶⁾、CDSでは集団リハビリテーションは実施しておらず、返ってそのことを肯定的に捉える者や子供扱いされる集団を嫌う者もいた。つまり本研究の結果は、他利用者と対等で自然な交流を楽しめる社会、文化的環境があれば、無理に集団を作らなくともピアサポートが得られる関係性を構築でき、これが居場所感の醸成につながる可能性があることを示唆している。これと同時に他者と対等で自然な交流を楽しむ心情は、特にクラスター1において利用者の言動に管理的な大規模施設への不満が反転する形で見出されていた。つまり大規模施設と比較することでCDSに対する肯定的心情が際立った可能性もあるが、いずれにしても利用者の言動を管理する環境は居場所の要素⁴⁾とは対極的であり居場所感の醸成につながらない可能性が高い。またクラスター3の対象者は、他者との交流について多くを語らない一方で、CDSの自由な施設文化や居心地の良さは語っていることから積極的な対人交流を望んでいない可能性がある。濱田らは、交流が苦手な高齢者の居場所作りが今後の課題と述べていることから⁴⁾、本研究の結果はDSで対人交流を望まない者が居場所感を醸成するための回答でもある。この点について、CDSでは運動機器を使用し一人でできる作業の選択肢が多く、その時間は他者と交流せずに過ごせることで居心地の良さにつながった可能性がある。

次にCDSで可能な作業遂行の第2の特徴は「自分の意思で好きな作業を安心して遂行する」であった。これは第1の特徴を支える内容であり、CDSの作業遂行の

根本をなすものであった。これまで利用者の中には、思い通りに活動できず¹³⁾受動的な態度で利用している¹⁴⁾ことから、自分の意思で好きな作業ができることはCDSの特徴といえる。また対象者はCDSの物理、社会、文化的環境に対して使いやすさ、安心、癒し、楽しさ、居心地の良さを感じていた。この心情は心理的居場所の要素⁴⁾にも含まれる。まずCDSの物理的環境に関して、対象者は使いやすさや安心感を抱いていた。この結果はCDSの物理的環境と対象者の心身機能が調和しやすかったことを意味すると考えられる。無論、心身機能は個別性が高いことから物理的環境を利用者の心身機能に合わせて使用や調整できることが必要と思われる。こうした物理的環境が居場所として機能するためには、利用者の意思を受容し好きな作業を可能にする別の環境要因が必要であろう。その要因が利用者の意思が尊重される社会、文化的環境であったと考えられる。つまり物理的環境を自分の意思で使用や調整できるという認識は、その利用者を取り巻く人間関係や施設文化が許容しているからこそ引き出されたものと思われる。さらには好きな作業を自分の意思で安心して遂行できるCDSの社会、文化的環境は、対象者の作業的存在を保障することでもある。これは対象者の存在やアイデンティティの肯定にも関係するため心理的な居場所感の醸成につながった可能性が高い。しかしこの結果についてもクラスター1、3の対象者は、利用者の言動に管理的な大規模施設での経験と比較することでCDSに対する好感が引き出された可能性がある。

また、CDSで過ごす時間によって障害を肯定的に受け入れる対象者がいたことは特筆すべき結果である。この心境の変化は、対象者が自身の障害を受容する境涯に至ったと推察できる。障害受容は「あきらめでも居直りでもなく、障害に対する価値観(感)の転換であり、障害をもつことが自己の全体としての人間的価値を低下させるものではないことの認識と体得を通じて、恥の意識や劣等感を克服し積極的な生活態度に転ずること」¹⁸⁾と定義されている。即ちCDSにおいて対等で自然な文脈から導かれた他者との交流と、利用者中心の施設文化の中で作業的存在を保障された経験が自身の障害に対する否定的な価値観を翻らせて自分の価値を再認識できたと考えられた。この結果は居場所感の醸成によってもたらされた量的には評価できない次元におけるDS利用の新たな効果であることが示唆された。

一方で厚生労働省は、DS の内容が身体機能に偏っていること指摘しているが¹⁷⁾、本研究の結果は CDS のような身体機能に特化した物理的環境であっても利用者の意思で活動できる物理、社会、文化的環境が機能することで、身体的エクササイズが単なる活動ではなく「作業」として成立し居場所感の醸成につながり得ることを示している。従って一概に身体機能に偏ったサービスを否定することにはならない。

4.2 利用者の居場所感の醸成を促進できる DS 支援の視点

ここでは居場所の 3 類型⁴⁾を参考に、本研究の結果を踏まえて居場所感の醸成につながる DS 支援の視点を述べる。まず CDS は身体的エクササイズに特化した環境であったが、利用者の意思で使用や調整できる環境を整備することで、自身の心身機能に適合した、作業遂行としての身体的エクササイズが可能になり、物理的居場所の意味が見出されると考えられた。こうした物理的居場所が機能する背景には DS 内の良好な人間関係、特に職員との対等で自然な交流が特徴であった。しかし木下¹⁹⁾によれば、高齢者は介護場面などの社会的に逃げられない状況では自由な感情表現や人間関係が極小化すると述べている。この背景には支援者と要介護者という非対称的な人間関係がある。つまり利用者が抱く専門職に対するプライオリティーを加味しながら、DS の職員は利用者との対等な態度を意識的に示し続けることで DS が社会的居場所として意味を成すであろう。その結果、利用者からみて対等な交流ができていると感じることができれば、安心や居心地の良さといった心情が湧き、DS が心理的居場所として機能すると考えられる。また本研究の結果より、他者との交流を望まない利用者への支援として、他者との交流を好む者とそうでない者の両者が共存できる環境作りが重要であった。DS の目的には社会的孤立感の解消が挙げられており、他者との交流を目的に DS が利用される場合も多いとされるが³⁾、そもそも交流を好まない者にとって交流の促しは返って居心地の悪いものであろう。従って、交流を好まない利用者の居場所作りでは、他者との交流を是とする社会的圧力からの逃げ場として、違和感なく単独行動できる物理、社会、文化的環境を整備することが重要である。

5. 本研究の限界

本研究の対象は一施設であったことと個別調査の対象者が少ないため、本研究の成果を一般化するには限界がある。特に本研究の対象者の要介護度が比較的軽度であったことから、対象者が自分の意思で判断し行動できる DS の環境、作業が用意されていることが居場所感の醸成を促進する前提となる。また作業療法士として利用者の個別機能訓練や他職員に対する機能訓練のファシリテートを行った経験がある筆者が研究者となったことに加えて、CDS に好感をもたなかった者は通所先を変更している可能性もあることから、CDS に対する肯定的なデータが集まりやすかった可能性がある。

6. 結論

CDS で可能な作業遂行には「職員や他利用者と対等で自然な交流を楽しむ」こと、および「自分の意思で好きな作業を安心して遂行する」という特徴があり、これらが DS の居場所感を醸成し利用者の障害受容に導くことが示唆された。これを踏まえた居場所感を醸成できる DS 支援の視点は、専門職と利用者という非対称性を意図的に排した対等で自然と実感できる人間関係の構築、および利用者の意思や心身機能に合わせて使用や調整ができる環境の構築が必要であり、その基礎には利用者の意思で作業遂行できる自由な施設文化を構築する重要性が示唆された。

7. 謝辞

研究の実施にあたりご協力いただいた CDS の方々、研究の遂行にご助言をいただいた全ての方々に感謝を申し上げます。

引用文献

- 1) 長谷憲明：よくわかる！新しい介護保険のしくみ 平成 30 年改正対応版。瀬谷出版, p.54 (2018)
- 2) 厚生労働省：平成 24 年度介護報酬改定の効果検証及び調査研究に係る調査（平成 26 年度調査）(6) リハビリテーションにおける医療と介護の連携に関する調査研究事業報告書。 https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutan-tou/0000086446.pdf (2021 年 7 月 25 日参照)
- 3) 厚生労働省：通所介護のあり方に関する調査研究事

- 業 報 告 書. https://www.murc.jp/uploads/2014/05/koukai_140513_c4.pdf (2021 年 7 月 25 日参照)
- 4) 濱田莉奈, 沖中由美:「高齢者の居場所」に関する国内原著論文の検討ー高齢者や地域社会にとっての居場所の重要性ー. *Hospice and Home Care*.28 (1), pp.119-129 (2020)
 - 5) 藤原靖浩:居場所の定義についての研究. *教育学論究*. 2, pp.169-177 (2010)
 - 6) 熊倉陽介:居場所の臨床としてのハウジングファースト. *精神医学*. 61 (5), pp.533-540 (2019)
 - 7) 一般社団法人日本作業療法士協会:作業療法の定義. <https://www.jaot.or.jp/about/definition/>, (2020 年 12 月 2 日参照)
 - 8) Wilcock A:A theory of the human need for occupation. *Journal of Occupational Science*. 1, pp.17-24 (1993)
 - 9) Law M,Cooper B,Strong S,Stewart D,Rigby P,Letts L:The Person-Environment-Occupation Model-A Transactive Approach to Occupational Performance. *Can J Occup Ther*.63 (1), pp.9-23 (1996)
 - 10) 森本真太郎:通所介護を利用する失語症を呈した一事例に対するクライアント中心の実践ー「意味のある作業」に着目した支援による Quality of life の変化ー. *リハビリテーション科学ジャーナル*. 15, pp.51-67 (2020)
 - 11) 横井賀津志, 藤井有里, 酒井ひとみ:自身を定義づける作業と結びつくことにより再び自分らしさを獲得した事例ー PEO モデルを用いた介入ー. *作業療法*. 39 (1), pp.109-117 (2020)
 - 12) 平賀睦:介護者におけるデイサービス利用の抵抗感の要因. *地域看護*. 33, pp.90-92 (2002)
 - 13) 上野佳代:要介護者とその家族のデイサービス利用に対する抵抗感の研究. *老年学雑誌*. 2, pp.57-71 (2011)
 - 14) 津島順子, 小河孝則, 吉田浩子:虚弱高齢者の通所介護利用に関する心情. *介護福祉学*. 15 (2), pp.182-189 (2008)
 - 15) Strong S,Rigby P,Stewart D,Law M,Letts L,Cooper B:Application of the Person-Environment-Occupation Model: a practical tool.*Can J Occup Ther*.66 (3), pp.122-133 (1999)
 - 16) 大田仁史:脳卒中者の集団リハビリテーション訓練の 13 原則. 三輪書店, p.35-36 (2010)
 - 17) 厚生労働省:平成 24 年度介護報酬改定に効果検証及び調査研究に係る調査 (11) 生活期リハビリテーションに関する実態調査報告書. 48, 2013. https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshit-su_Shakaihoshoutantou/0000051768.pdf (参 照 2022 年 1 月 14 日参照).
 - 18) 上田敏:障害の受容ーその本質と諸段階についてー. *総合リハビリテーション*. 8, pp.515-521 (1980)
 - 19) 木下康仁:老人ケアの社会学. 医学書院, p.136 (1989)

参考文献

- 1) 西條剛央:構造構成主義とは何か 次世代人間科学の原理. 北大路書房. pp.208-213 (2005)
- 2) 西條剛央:研究以前のモンダイ 看護研究で迷わないための超入門講座. 医学書院. (2009)
- 3) Fetters M, 抱井尚子:混合研究法の手引き トレジャーハントで学ぶ研究デザインから論文の書き方まで. 遠見書房. p.28 (2021)
- 4) Creswell JW,Clark VL, 大谷順子・訳:人間科学のための混合研究法 質的・量的アプローチをつなぐ研究デザイン. 北大路書房. pp.66-97 (2010)
- 5) 川喜田二郎:KJ 法 混沌をして語らしめる. 中央公論者. (1996)
- 6) 田中博晃:KJ 法入門 質的データ分析法としての KJ 法を行う前に. 外国教育メディア学会関西支部メソドロジー研究部会 2010 年度報告論集. pp.17-29 (2011)